特集 お寺巡りの旅

飛鳥時代に建立の古刹、別名「コスモス寺」

般若寺を歩く（奈良県奈良市）

境内西側を通る京街道に面して立つ国宝の楼門。鎌倉時代に造られたもので楼門遺構では日本最古の作例になる。和様に天竺様式を取り入れ、美しく軽快な屋根の反りが特徴。

般若経の学問寺として栄え、国宝の楼門をはじめ、数々の文化財を今に伝える般若寺。奈良を代表する名刹であり、また、境内の石仏を彩って咲く春の山吹、秋のコスモスが美しい花の寺としても人々の心を和ませています。

般若寺

住所◆奈良県奈良市般若寺町221番地
電話◆0742-22-6287
交通◆JR・近鉄奈良駅から「青山住宅行」「州見台八丁目行」バスで「般若寺」下車、徒歩約3分
拝観◆9:00～17:00
（最終受付16:30）
拝観料◆大人500円、中高生200円、小学生100円

飛鳥時代の創建以降 歴史を彩った由緒ある古刹へ

奈良市の北部、京街道沿いにある般若寺。飛鳥時代に創建された由緒ある古刹ながら、境内に一歩入れば、お堂を取り囲むように表情豊かな石仏が静かに並び、まるで山寺のような長閑で親しみやすい雰囲気に包まれています。また、四季を通じて様々な花が見られる花の名所でもあり、特に秋のコスモスの美しさから「コスモス寺」とも呼ばれています。

ご案内いただいた
副住職
工藤顕任（けんにん）さん

御本尊の文殊菩薩騎獅像。知恵を司る文殊様で、迫力のある獅子にまたがる勇敢な少年のような姿が印象的。重要文化財

境内の中心に立つ総高14.2mもある日本最大の十三重石宝塔。宋から招かれた石大工の伊行末（いぎょうまつ）の傑作としても知られ、長い歴史と格の高さを今に伝える。重要文化財

笠塔婆形式の石塔では日本最古の作例とされる重要文化財の笠塔婆。刻まれた梵字は鎌倉時代独特の「薬研（やげん）彫り」の代表例。

境内の東側にある経蔵は、お経の全集である一切経（大蔵経）を収蔵する施設として利用されてきた鎌倉時代築の建物。重要文化財

本堂を取り囲むように並ぶ石仏は、西国三十三ヶ所観音霊場のそれぞれの御本尊が石像となったもの。慈悲深い優しいお顔の観音様に癒される。

寺伝によると、創建は舒明（じょめい）天皇元年（629）。高句麗の僧慧灌（えかん）がこの地に寺を建てたのが始まりとされ、天平7年（735）には聖武天皇の頃に平城京の鬼門鎮護のために「大般若経」を石塔に納めたことにちなんで「般若寺」と名付けられました。平安の頃には学僧千人を集める学問寺として長い間繁栄を誇ったとも伝えられています。

しかし、この地は奈良と京都を結ぶ交通の要所だったことから、幾度となく歴史の表舞台に登場します。治承（じしょう）4年（1180）には平重衡（たいらのしげひら）の南都焼き討ちにより、合戦場となったことから伽藍は焼亡。この出来事は、あの『平家物語』の中で南都炎上として描かれています。ようやく鎌倉時代になり、廃墟の中から金堂や講堂など七堂伽藍の再建が行なわれ、寺観が旧復したといいます。

「なかでも、福祉の先駆者として名高い西大寺の叡尊（えいそん）上人により、丈六（じょうろく）の文殊（もんじゅ）菩薩（ぼさつ）が祀られたことで、この寺は文殊の霊場として再興しました。上人は菩薩の教えである利他の行（自己を高め他のためにはたらく）を実践し、弟子の忍性（にんしょう）たちとともに病者や貧者の救済に力を尽くされました」

と、般若寺の副住職、工藤顕任さんは話されます。

般若寺はその後も室町・戦国時代に兵火を被り、主要伽藍を失うも江戸時